

市長・議長あいさつ

平成の大合併の号令の下、郡内の 5 町が合併、伊達市が発足して早いもので 10 年が経過しましたが、振り返れば、この間にはいろいろのことがありました。

その第一は、何とんでも「東日本大震災」であり、津波が原因で福島第一原発が事故を起こし未曾有の放射能災害が発生したことです。この災害は広域多岐にわたり、かつ過去に経験の無い対応が必要でしたが、原子力専門家の助言を受けつつ除染の試験等国県に先駆けて実施し、放射能対策を迅速に取り組むことが出来たのは合併による広域化、職員規模拡大の結果であると考えています。

第二は、少子高齢社会に対応するための「健幸都市」への取り組みです。合併は進展する少子高齢社会に対して持続可能な基礎自治体を作ることが目的で、そのための財政の健全化や高齢福祉制度の複雑高度化に対処するための組織改正や専門職員の配置等を実施する一方、少子化には認定こども園、放課後児童クラブ館等の整備を進め、子育て支援や子供の健全育成に努めてきました。

震災後の本市の社会環境は、復興道路の建設などで大きく変わって来ていることを意識しつつ、次の 10 年に向かって新たな出発をしていきたいと思いますので、市民の皆さん宜しくお願い致します。



市長 に志田昇司



平成 18 年 1 月伊達郡内の 5 町が合併して「伊達市」が誕生し、早 10 年の歳月が経過いたしました。

この間、東日本大震災とそれに伴う原発事故では、本市においても甚大な被害を受け苦難も強いられましたが、市民の皆様が一丸となってこの苦境に立ち向かい乗り越えてきましたことは、私たちの大きな財産になったものと思います。まだまだ放射能対策などの課題は残っていますが、市民の皆様のたゆまぬご努力に感謝申し上げます。

さて、伊達市では平成 27 年度より、第 2 次総合計画に基づくまちづくりが進められています。少子高齢化、人口減少が進む厳しい環境ではありますが、復興から発展へ、夢と希望の持てるまちづくりを進めるため、私たち市議会も市民の皆様の声を聴きながら、市政に反映されるよう努めてまいります。

市民の皆様におかれましても、これからの未来に向かって、これまで以上にご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

議長 安藤喜昭

